

スレイマニエ図書館 —その概要と利用について—

橋爪 烈

I. はじめに

筆者は2012年夏、2013年夏と秋、2014年夏の計四度、またそれ以前2006年夏に一ヶ月強、アラビア語写本調査のため、トルコ共和国のイスタンブール市ファーティヒ地区にあるスレイマニエ図書館を利用する機会に恵まれた。本稿は、その経験を基にスレイマニエ図書館の利用案内を兼ねた図書館施設の紹介を目的とする。ただ筆者はトルコ語ができないため、かなり苦労しながら図書館を利用した¹。また本稿を執筆するにあたり体系的な調査や職員へのインタビューを行ったわけではなく、日々の写本調査から知り得た内容や Web サイト上に挙がっている情報に多く依拠している。それ故の誤解や偏見は大いにあると思われる。またここ3年間に閲覧室の移動や複写申請方法などに変更があり、加えて更なる閲覧室の移動も予定されているため、本稿が世に出るころには事情が変わっている可能性が大いにある。故に、利用案内については参考としてお読みいただければ幸いである。

II. スレイマニエ図書館略史

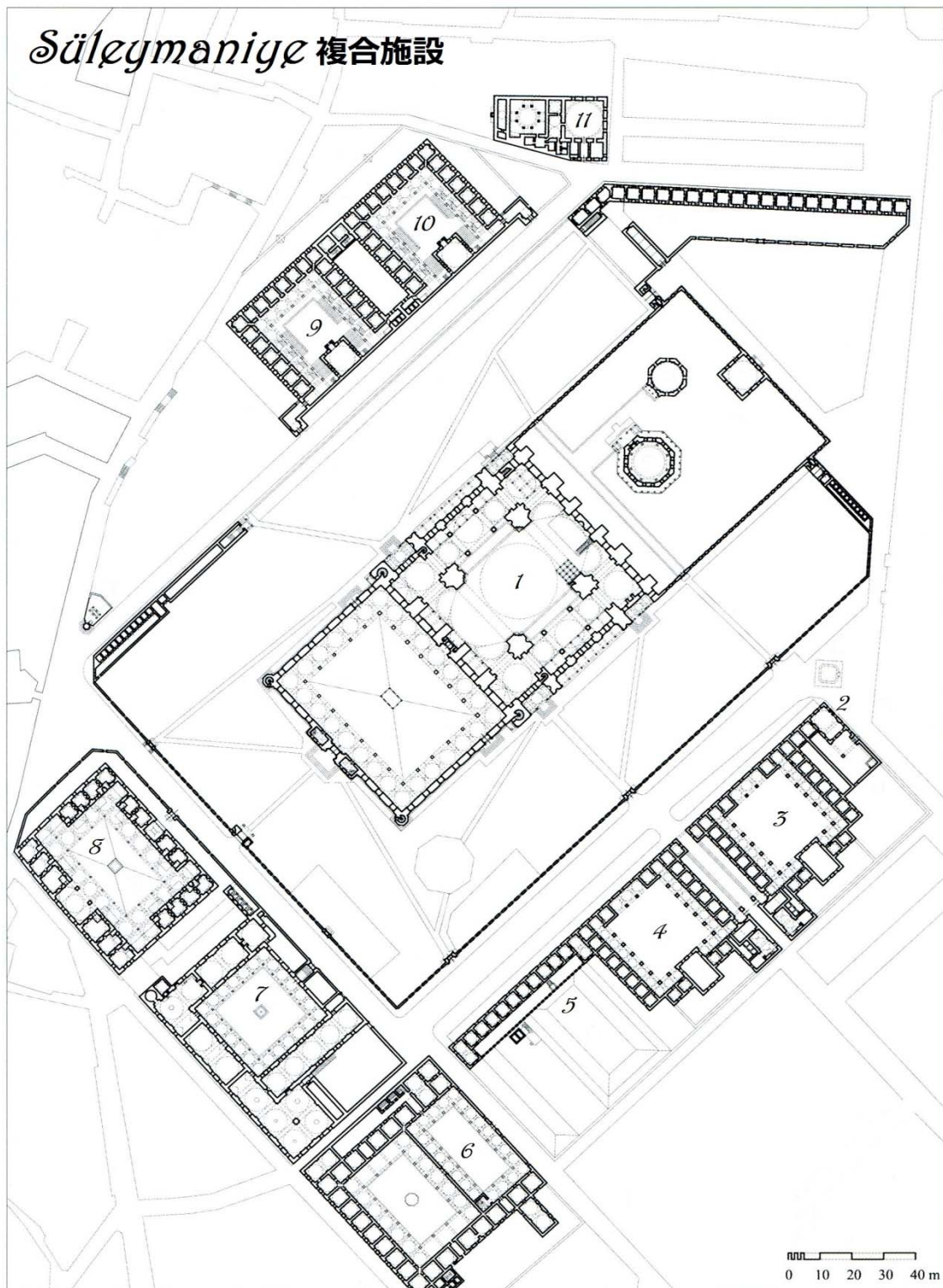
スレイマニエ図書館 Süleymaniye Yazma Eser Kütüphanesi はスレイマニエ・モスクを中核とするスレイマニエ複合施設 Süleymaniye Külliyesi の一角を占める第1マドラサ、第2マドラサであった場所に位置している²。この複合施設はスレイマン1世（在位1520-1566）の命により、高名な建築家ミマール・スィナン Mimar Sinan の設計の下、1550年から1557年にかけて建設されたものである。完成当初から図書館の機能が存在したかは不明であるが、エルンサル Erünsal によると、1561~65年頃から図書の搬入記録が存在し、1583年には司書と副司書が任命されていた、とのことであるので、完成から数年の内に図書館の機能を備えた施設になっていたものと思われる³。

¹ 同時期に研究調査や留学でイスタンブールに滞在していた先生方や先輩、同輩、後輩諸氏より多大なご協力を頂いた。特に、東長靖先生、小林春夫先生、高松洋一氏、秋葉淳氏、小笠原弘幸氏、澤井一彰氏、佐々木紳氏、上野雅由樹氏、守田まどか氏にはこの場を借りてお礼申し上げる。またスレイマニエ複合施設のプランとその書誌情報については深見奈緒子先生よりご教示頂いた。併せて謝意を表するものである。

² 図1 スレイマニエ複合施設を参照のこと。2014年9月現在、閲覧室は第1マドラサ Evvel Medresesi の南東に位置する小児用学校 Sibyan Mektebi に移動している。これは第2マドラサ Sani Medresesi にあった閲覧室の改修工事期間の臨時措置である。

³ Erünsal 2008, p.35. しかし図書館設立は2世紀後の1751年という記述もある。cf. “Süleymaniye Library, Istanbul” in *The Oxford Companion to the Book*, vol. 2, p. 1187b (Oxford U.P., 2010).

図1 スレイマニエ複合施設



1. スレイマニエ・モスク 2. 小児用学校 3. 第1マドラサ 4. 第2マドラサ 5. 医学学校 6. 病院
7. 救貧院 8. 隊商宿 9. 第3マドラサ 10. 第4マドラサ 11. ハمام

Necipoğlu, 2011, p. 205の図を改変

その後、20世紀初頭の1918年、第一次世界大戦の戦火から図書を保護する目的で⁴イスタンブルにあるアシル・エフェンディ Aşir Efendi、ベシル・アー Beşir Ağa、チェレビ・アブドゥッラー・エフェンディ Çelebi Abdullah Efendi、ハーフズ・アフメット・パシヤ Hafız Ahmet Paşa、クルチ・アリ・パシヤ Kılıç Ali Paşa、ラーレリ Laleli、メスィフ・パシヤ Mesih Paşa、モッラー・チェレビ Molla Çelebi などのワクフ図書館所蔵の写本がスレイマニエに移管され、スレイマニエ総合図書館 Süleymaniye Umumî Kütüphanesi として開設されたとのことである。1924年カリフ制廃止に伴い、宗教教育施設が閉鎖され、マドラサ、ハーンカー、テッケ所蔵の写本が移管される。その後1967年にはアヤソフィヤ図書館のコレクションなどが移管されている。現在、スレイマニエ図書館は、傘下にアートゥフ・エフェンディ Atıf Efendi、ハジュ・セリム・アー Hacı Selim Ağa、キョプリュリュ Köprülü、ヌールオスマニエ Nuruosmaniye、ラーグプ・パシヤ Ragıp Paşa の各図書館を擁する、トルコ国内の所蔵写本数最多を誇る図書館となり、現在に至っている⁵。

2002年から2011年にかけて収蔵・管轄する図書館の写本のデジタル化作業が行われ、現在はその大半がデジタル画像で閲覧することができるようになっている。その反面、写本そのものの閲覧には特別な許可が必要になったようである。また現在、書庫・閲覧室の改修が行われており、閲覧室は2015年春頃に開室予定とのことであるが、定かではない⁶。

III. スレイマニエ図書館所蔵写本の概要

前述の通り、スレイマニエ図書館はトルコ国内最大の写本所蔵数を誇り、世界的に見ても有数の図書館である。アラビア語、オスマントルコ語、ペルシア語の写本を始め、

⁴ W2 (参照 Web サイトの略号である) を参照の事。この Hazine というサイトにあるスレイマニエ図書館の紹介記事には特に典拠が明示されていない (<http://hazine.info/> 同サイトは Christopher Markiewicz 氏と Nir Shafir 氏という二人の若手研究者によって運営されているイスラーム関連図書館紹介サイトである。典拠明示はされていないが、執筆者本人の調査であろうことが文面から読み取れる内容となっている。本稿の筆者が直面した問題や感じたことと共通点が多々あり、国や研究対象の違いに拘わらず苦労している様子が窺え、興味深く読むことができる。

⁵ この間の事情については、主として Web 上で公開されている W4 の情報に基づいている。W4 は、内容等から判断して、ユネスコのプロジェクトの一つである Memory of the World への登録のための文書 (“Turkey - Manuscripts collection of the Süleymaniye Library” と題されている) と思われる。ただし、本登録されなかったようで、ユネスコの HP からのリンクは存在しない。閲覧にあたっては、稿末の参照 Web サイト一覧を見られたい。この中には有力な典拠として、Dener 1957 が示されており、スレイマニエ図書館へ図書を移管した各種ワクフ図書館の名前や移管年代が提示されている。cf. Dener 1957, 30-35.

⁶ 2014年9月に筆者が図書館秘書イスマイル・ファキルッラー氏に尋ねたところ、「あと6か月程で開室する」とのことであった。

トルコ語や欧米諸語の刊本、定期刊行物、能書家の書画作品などを所蔵している。所蔵写本数については区々であり、正確なところは不明である。最も信頼に値すると思われる情報源はトルコ共和国文化観光省 T.C. Kültür ve Turizm Bakanlığı のトルコ諸写本 *Türkiye Yazmaları* と題する HP 内の情報であろう⁷。それによるとスレイマニエ図書館及び傘下の 5 図書館の写本総数は 88056 冊である⁸。その他筆者が参照した限りでは 6 万 5 千から 7 万冊とするものが多く⁹、中には 10 万冊前後と見積もる情報源もある¹⁰。刊本については 4~5 万冊とする場合が多いが、12 万冊とするものもある¹¹。また所蔵されるコレクション数（分類数）も区々であり、92、106、118、122、146 という数が見られる¹²。

筆者が 2014 年 9 月 12 日時点で、スレイマニエ図書館の書誌検索システムを用いて、同図書館が管轄する所蔵写本・刊本等の件数を調査したところ、224 の分類が確認できた。この中には ALİ EMİLİ のように下位区分が 22 あり、それら各々を一つの分類と見なしているほか、同検索システムから直接画像を閲覧することができず、書誌情報のみ閲覧できる他館所蔵分類などもあるため、それらを除外すると、スレイマニエ図書館所蔵の分類数はおよそ 160 ほどであろうか¹³。

写本冊数については、前述の通り 9 万冊弱とするのが妥当であろうが、タイトル数についても参考情報を提示しておきたい。スレイマニエの検索システムでは、全体で 275386 点の書誌情報が検索できる。この内、写本 *yazma* が 184011 点で、アラビア語のタイトル数が 137959 点である。合冊本の中に含まれる複数のタイトルそれぞれを 1 点とみなすので、写本冊数よりも数字が大きくなっている¹⁴。前述のようにスレイマニエ図書館管轄外の書誌情報も含まれるため、その点は差し引いて考える必要があるが、18.4 万点の写本がスレイマニエを中心とした図書館に所蔵されており、その内 14 万点近くがアラビア語のタイトルを有する書籍である点は押さえておく必要がある。アラブの歴史や思想、文学等を研究するに際しても、スレイマニエ図書館での調査は避けて通れないということになる。

⁷ W0-1. なお W1 の 9 万冊弱という情報はこの HP によるものであろう。

⁸ 内訳は、スレイマニエ 72839 冊、アトウフ・エフェンディ 3228 冊、ハジュ・セリム・ア—2887 冊、キョプリュリュ 2775 冊、ヌールオスマニエ 5053 冊、ラーグブ・パシャ 1274 冊である。cf. W0-1.

⁹ cf. 三浦 2014、小笠原 2008、W3、W5、W6、W4。

¹⁰ W2.

¹¹ W5.

¹² それぞれ三浦 2014、303、W5、W4、イスケンデル 2007、83、W0-2.

¹³ 筆者の把握し得た限りでスレイマニエ図書館管轄外の分類を除外した数である。W0-2 の情報よりも 20 ほど多くなっている。今後の確認作業が必要である。

¹⁴ 例えば、Fatih 4445 写本は①*al-Faḍā'il al-Khulafā' al-Arba'a*、②*Manāzil A'imma al-Arba'a*、③*Kitāb al-Sharḥ wa al-Ibāna 'an Uṣūl al-Sunna wa al-Diyāna*、④*Qiṣṣat 'Alī b. al-Husayn Zayr al-Ābidīn*、⑤*Maw'izat 'Alī b. al-Husayn Zayr al-Ābidīn* の 5 タイトルの合冊本であり、冊数では 1 冊であるが、タイトル数では 5 点となる。

規模の大きな分類を順に列挙すると、まずヤズマ・バーシュラル（寄贈写本）*Yazma Bağışlar* が刊本等を含めた全収蔵点数 13149 点、その内写本が 13128 点、アラビア語タイトル数が 7919 点である。次いでエサト・エフェンディ *Esad Efendi* 分類が収蔵点数 10626 点、内写本が 10337 点、アラビア語タイトル数が 7346 点、次いでハジュ・マフムト・エフェンディ *Hacı Mahmud Efendi* 分類が収蔵点数 10267 点、内写本が 7160 点、アラビア語タイトル数が 3964 点、次いでアヤソフィヤ *Ayasofya* 分類が収蔵点数 8642 点、内写本が 8569 点、アラビア語タイトル数が 6475 点となる¹⁵。

IV. スレイマニエ図書館の利用について

さて以下ではスレイマニエ図書館の利用方法について、筆者の体験を踏まえながら記していくことにする。

IV-1 アクセス

スレイマニエ図書館への行き方であるが、公共機関の駅等の目の前にはないので、最終的には徒歩で行くことになる。筆者は通常アヤソフィヤ博物館隣の常宿からトラムヴァイ（路面電車）を利用するか線路沿いを歩くかして、ベヤズット駅まで行き、ベヤズット・モスクを右手に見ながらイスタンブル大学正門へ向かう。そこから左手に進み、イスタンブル大の塀に沿って薬学部校舎とメイン・キャンパスの間の道を北へ向かう。するとイスタンブル大学の裏手に出る。左手後方からの道と合流するあたりでスレイマニエ・モスクが、そして図書館建物の角が目に入る¹⁶。現在、図書館入り口は合流地点からスレイマニエ・モスク方面へ下ったインゲンマメの煮込みの老舗である *Ali Baba Kanaat* レストランのすぐ手前の塀にあるが、本来はその手前にある *Akar* レストランの角を左に曲がり、最初の角を右に曲がってすぐ左手にある。近年は *Google map* が利用できるので、上記の経路案内で迷わずたどり着けるのではないだろうか。

IV-2 入館に際して

入館に際しては、入口守衛室にパスポートないし身分証を預け、代わりにロッカーの鍵を受け取る。ロッカーには鞆類を納める必要がある。このロッカーがかなり古く、施

¹⁵ この検索結果は検索条件画面において写本 *yazma* を選び、また言語 *dil* をアラビア語 *arapça* とした上で得られたものであるが、一部トルコ語写本が混入しているほか、言語分類部分が空白となっているためヒットしない書誌情報もある。

¹⁶ 図書館へのアクセスは各種 *Web* サイトにも掲載されており、イスタンブル大の東側の壁伝いに裏へ回る経路や、エミノニュからリュステム・パシャ・モスク裏手の問屋街の坂道を登る経路、あるいはアタチュルク大通りにあるヴァレンス水道橋の北側の道を東に向かって登る経路などがある。ただ筆者はこの経路が最も分かりやすく、起伏が少ないので楽であり、また人に説明しやすい経路と考えている。なお 2014 年 9 月現在、イスタンブル大学正門前から南西部分にかけての一角が工事中であるため、薬学部校舎の南西角まで迂回する必要があった。

錠がしにくいものやそもそも施錠できないものもある。2006年当時スレイマニエ図書館利用についてはあらかじめ申請書を郵送する、あるいはその場で申請書を作成し、館長の許可を得る必要があったが、その後パスポート等の身分証提示のみで利用が可能となった。2014年9月現在、特にあらかじめ申請する必要はない¹⁷。

IV-3 開館日時

基本的に年中無休かと思われる。「と思われる」と書いたのは、一年を通して利用していないためであるが、筆者の経験では、祝日も開館しており閲覧のみであれば利用できたので、基本的に開館していると言ってよいだろう¹⁸。開館時間は8:30から23:00までであり、年間を通して変わらないようである。ただし複写係や会計係の職員は基本的に月～金の8:30から17:00が就業時間であるため、複写を申請する者はその就業時間内に行う必要がある¹⁹。また金曜正午過ぎの礼拝からの時間帯も複写係の職員が席を外すことがある。17:00以降23:00までや土日祝日についてはコンピューターによる閲覧のみであり、この間の対応は守衛や警備員によって行われる²⁰。

IV-4 閲覧室

閲覧室に入ると、壁際に参考図書が並び、部屋には六脚の木製テーブルが置かれ、各々4脚の椅子が添えられているのを目の当たりにするだろう。テーブルには各2台ディスプレイとキーボード、マウスがあり、それらは斜向かいに配置されている。閲覧者はこのディスプレイの前に座り、写本のデジタル画像を閲覧することになる。また壁際と出窓部分には本棚が設置され、各種工具書や目録が置かれている。現在の閲覧室になる前は、今の4倍程度参考図書類が置かれており、使い勝手も良かったが、現状の狭い閲覧室では諦めるしかない。ちなみにアラビア語の辞書としては、Hans WehrとMunjidが備えられている。

計12台のコンピューターがあるわけだが、長期休暇中のお昼近くから夕方4時ぐらいまではほぼ満席状態となるので、早めに閲覧室に入り、場所を確保するのが良いだろう。特に12台のコンピューターが常に同じパフォーマンスを示すわけではないことやラップトップを利用する際の電源確保を巡って熾烈な場所取り合戦(?)が繰り広げら

¹⁷ これは写本の閲覧が専らコンピューターを使用して行われるようになったためであると思われる。

¹⁸ とはいえ、僅かな経験で語っているので、休祝日の利用にあたっては、利用者個々人の責任でお願いしたい。

¹⁹ 昼食や礼拝等で申請ができない場合や早めに帰宅する場合もあるので、可及的速やかに申請を行うことをお勧めする。

²⁰ ちなみに筆者は23:00まで利用することもしばしばあったが、ガラんとした閲覧室に一人で座っていると21:00以降、警備員が入ってきては「まだいるのか?!」といった顔で出て行くのを時折目にした。利用者がいなくなれば、早めに閉館することもあるな、と思った次第である。

れることになるので、早めに行くにこしたことはない。昼食のために外出する際、席を確保したままで出かけることができるが、混み合っている場合、職員の方で強制撤去し、後から来た閲覧者に利用させることもある。

朝一番で部屋に入った場合、電源が入っていないこともあるが、大抵の場合、机に就くとすぐに利用できる状態になっている。ただし、Web サイト Hazine の主催者たちも書いているように、このコンピューターはしばしば画面の一部や全体が暗転し、さらに症状が悪化するとフリーズを起こすので²¹、その際にテーブル下にあるコンピューター本体の電源ボタンを押し、強制終了と再起動を行う必要がある²²。利用にあたっては、テーブルの下を一度確認しておくといだろう。

IV-5 写本画像の閲覧

では写本の画像を呼び出してみよう。まずは検索である²³。図書館内のサーバーに接続するためのボタンが画面上に表示されているので、これをクリックすると Home のページが現れる。その中の Katalog を選ぶと、左に Aramanızı girin と書かれた入力欄のある簡易検索画面に至る²⁴。入力欄の右にはプルダウン方式の選択欄があり、ここで検索語句の種類が選べる。更にその右のプルダウンで検索結果の表示件数が選べる。検索語句を入力し、検索種類を選んだら、右の検索 Bul のボタンをクリックする。検索語句を消す場合は Temizle をクリックする。検索語句の種類は、「全て Tümü」、「タイトル Eser Adı」、「著者 Yazar」、「責任者 Sorumlular」、「件名標目（見出し語句）Konu Başlıkları」、「図書館分類 sınıflama」、「登録番号 Demirbaş」、ISBN、「出版情報 Basım Bilgileri」²⁵、「シリーズ Dizi Kaydı」、「内容/概要 Öz/Özet/İçindekilerişisi」である。

この検索システムの最大の難点は、アラビア文字での検索ができず、アラビア語の著者名やタイトルを現代トルコ語の転写方式で入力しなければならないことである。これは書誌情報が全て現代トルコ語の転写方式で入力されているためである。トルコ語の知

²¹ W2 を参照の事。また個別のコンピューターの問題ではなく、サーバーと閲覧室を結ぶ回線の不調や不意の停電（職員が空調設備をフル稼働させることと降雨による配線の故障が原因であると筆者は睨んでいる）により、閲覧室の全コンピューターで閲覧ができなくなることもしばしばである。こうなると、新参の閲覧者は職員に苦情を述べに行き、常連の閲覧者は互いに顔を見合わせて苦笑し、「仕方ないね」「またか」といった仕草になる。

²² もちろん職員に泣きついてもいい。

²³ この検索システムはスレイマニエ図書館内のコンピューターでしか行えないが、イスラーム研究センター（İSAM）図書館 İslâm Araştırmaları Merkezi Kütüphanesi の HP 内にある検索システムによって一部写本の書誌情報を入手することができる。ただし入力に際しては現代トルコ語の転写方式に拠らねばならない。検索画面へは Türkiye Kütüphaneleri VT から飛べる。http://ktp.isam.org.tr/ktpgenel/findrecords.php

²⁴ 図 2 検索画面と検索語句を参照の事。詳細検索を行う場合は、画面右端にある Arama Seçenekler ボタンをクリックする。

²⁵ 実際には、写本の筆者の名前が記載される。

識のない閲覧者にとっては、この転写方式が高い壁となって立ちはだかる。例えば、筆者の研究対象の一つであるスィブト・イブン・アルジャウズィー *Sibt Ibn al-Jawzī* 著『時代の鑑 *Mir'āt al-zamān*』の写本を検索する場合、著者名であれば「*Sibtu, İbnü, Cevzi*」といった語句を入力する必要がある。書名(タイトル)で検索する場合は「*Mirat, Zeman*」といった語を入力するとヒットする²⁶。「ジャウズィー」を「*Cevzi*」と、「ザマーン」を「*Zeman*」と入力するには、トルコ語の発音や転写方式についての知識が必須である。そのためトルコ語に不案内なアラビア語話者、アラビア語使用者にとって、トルコ語の転写方式とそれによる書誌情報は検索の際の大きな足枷となるのである²⁷。

そこで大方の利用者も同じであろうが、検索にあたって、筆者は別の検索語句の種類を利用することになっている。それは「登録番号 *Demirbaş*」である。研究書や論文等で写本の書誌情報を示す際に用いる略号と写本固有の番号(数字)の存在は周知のことと思われるが、その数字を用いて検索するのである²⁸。

ディオスコリデス著『薬物誌』のアヤソフィヤ写本を例にとると、研究書等の参考文献の略号としては *Ayasofya 3702* となるだろう。この 3702 という数字はアヤソフィヤ分類(コレクション)のディオスコリデス『薬物誌』写本に付された固有の番号である。この数字の先頭に 0 を加えた 03702 を入力し²⁹、プルダウンで *Demirbaş* を選択し検索を行う。すると、各コレクション中 3702 の登録番号を有する写本がコレクション毎に並んで結果表示される。*Ayasofya* の 3702、*Esad Efendi* の 3702、*Fatih* の 3702、*Hacı Muhammad Efendi* の 3702 といった具合である³⁰。そこで閲覧者はお目当ての写本(この場合 *Ayasofya*)が含まれるコレクション名の 3702 番の箇所をクリックし、書誌の詳細を表示し、さらに書誌情報中にある *e-yazma için tıklayın* などとリンクが張られた箇所をクリックする。こうして写本の画像³¹が表示され、調査に取り掛かることができるのである。

²⁶ 検索結果の画面表示では「*Mir'atü'z-Zeman*」となる。また統一した転写方式ではないらしく、*Zeman* ではなく *Zaman* となっていることもある。

²⁷ 特定のタイトルないし著者の写本を検索する場合、あらかじめ該当の固有名の全部ないし一部のトルコ語転写を調べていくことをお勧めする。

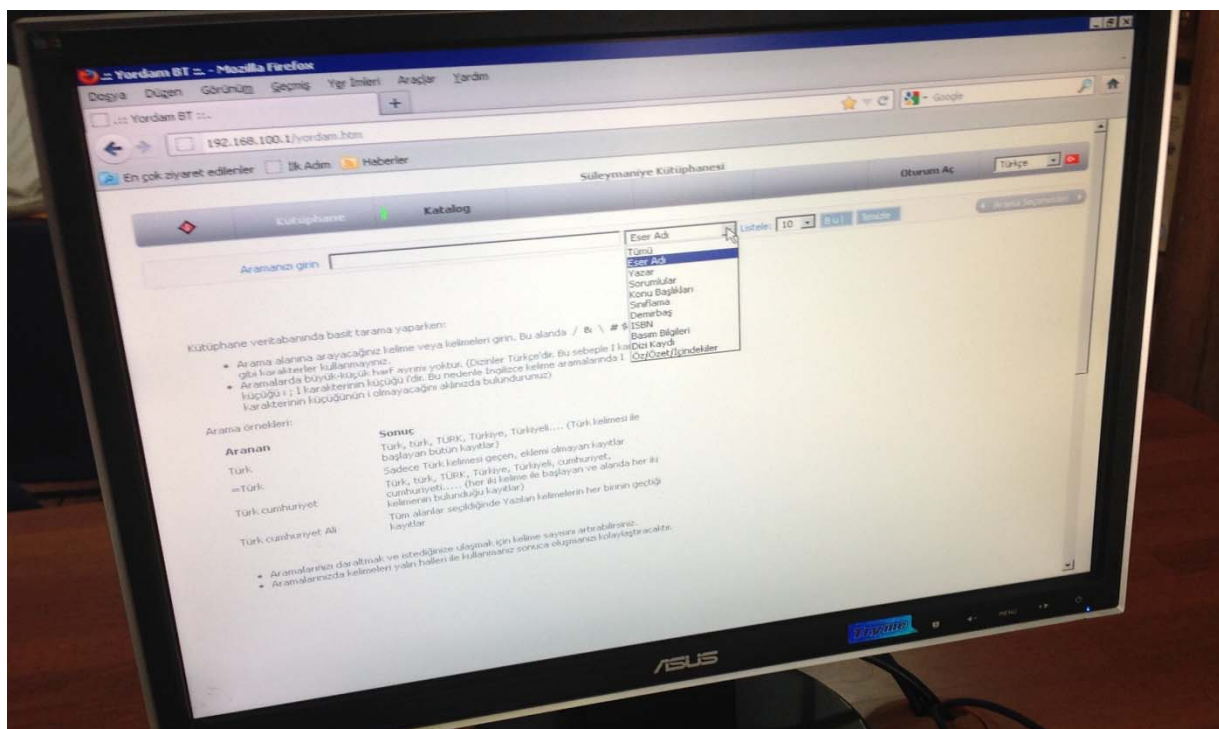
²⁸ イスタンブル市内にあった各ワクフ図書館(アヤソフィヤやファーティヒなど)旧蔵の写本であれば、19世紀末に出版された目録があるので、あらかじめ参照し、登録番号を控えておいて入力、検索すると作業がはかどるだろう。東京大学東洋文化研究所および東京外国語大学にはその目録が40冊程度所蔵されている。*defter, kütüphane* の2語で検索のこと。

²⁹ *Yenicami 878* であれば、00878 と入力することになる。

³⁰ 検索結果には著者名と書名も添えられるので、検索結果一覧を上から下へと眺めながら、同一登録番号を有する他の写本が何であるかを確認することもできる。

³¹ 写本画像は PDF で表示され、背表紙から表紙、場合によっては地の部分の画像に始まり、全頁の見開き画像、そして裏表紙まで一コマずつのファイルとなっている。

図2 検索画面と検索語句



検索結果リストではしばしば Fatih 4445-001、4445-002、4445-003、4445-004 などと同じ登録番号を持つ結果が提示される。下位の番号があることから察せられる通り、Fatih 4445 写本は数タイトルの合冊本であるが故に、こうした検索結果となる。ただし写本の画像を表示するためには、大抵の場合 4445-001 をクリックして書誌情報を出し、リンク表示を改めてクリックする必要がある³²。4445-002 以下の写本画像を閲覧する場合も同様に 4445-001 の書誌から画像を表示させ、4445-002 の最初の葉まで頁を捲る必要がある。

上記検索結果リストは基本的にはアルファベット順で数字も小から大へと並ぶが、時折あらぬところへ結果が表示されたり、順序が様々に入れ替わっていたりする（理由は不明である）。そのため結果が一画面（20 書誌がデフォルトである）で全て表示されない場合、数頁にわたって検索結果リストに目を凝らす必要が出てくる。また合冊本の場合のリンク表示も基本的には 0000-001 の書誌情報中に示されるが、たまに別の書誌情報中に表示されている場合がある。リンク表示が全く存在しない書誌情報は他館所蔵の写本であるか、スレイマニエ図書館蔵であってもまだ画像データが用意されていない写本ということになる。

ともかくこうした検索作業を経て、目当ての写本にたどり着き、調査を行うことになる。一度に十数のタブを開いて幾つかの写本を比較することは可能であるが、タブの数

³² 図3 写本書誌情報の例にある、URL e-yazma için tıklayın「写本画像へのリンク」をクリックする。すると写本の PDF が閲覧できる。

か多くなればその分コンピューターの動きが鈍くなり、フリーズや画面の一部ないし全体の暗転という問題発生率が高くなる。

図3 写本書誌情報の例

Eser Adı : Kitabü'l-İmame

Yazar : el-İsfahani-Ebu Nuaym Ahmed

Basım Bilgileri : Ebü'l-Bedr Muhammed b. İbrahim

Yayın Yeri / Yayınlayan³³ : Bağdad / Yazma³⁴

Yayın tarihi³⁵ : 0725³⁶

Fiziksel Nitelik³⁷ : 1-48 yk, 21 st, 160x115, 125x85 mm.

Konu Başlıkları : Kelam³⁸

URL e-yazma için tıklayın

Ayrıntı³⁹

sınıflama : 297.4

Demirbaş : 01617-001

Bölüm⁴⁰ : Fazıl Ahmed Paşa

Özellikler : [kitap][El Yazısı : Kağıt][Nesih : Arapça] ⁴¹

Cilt/Kopya⁴²

Sağlama Şekli : satın⁴³

IV-6 複写申請と複写代支払

さて、目当ての写本の調査が進むと、今度は写本の一部ないし全部の画像を複写するという作業に移ることになる。複写に際しては閲覧室に備えられている複写申請書⁴⁴

³³ 直訳すると、「出版地/出版社」となるが、記載内容から判断すると、「写本の作成地ないし筆写地/その資料の形態」となるだろう。

³⁴ 「バグダード/写本」

³⁵ 「筆写年ヒジュラ暦 or 西暦」

³⁶ 「ヒジュラ暦 725 年」

³⁷ 「写本の形態：葉数 yaprak、行数 satır、大きさ（一葉の縦 x 横 mm、一葉に占める文字列部分の縦 x 横 mm）」

³⁸ 「神学」

³⁹ 「詳細」

⁴⁰ 「コレクション名：ファズル・アフメト・パシャ」

⁴¹ 「各種特徴：[本][手稿本：紙][ナスフ体（書体）：アラビア語]」


⁴² 「巻/コピー」

⁴³ 「来歴：購入」

⁴⁴ 図4 複写申請用紙を参照の事。記入欄には全て英訳が付されているので記入は難し

に必要事項を記入し、複写係の職員に提出する。同職員は一コマ=1 トルコリラ⁴⁵で計算した額を申請者に提示するので、その額を会計係の部屋で支払う。会計係の部屋は本来閲覧室があった第2マドラサの建物内にあるので、一旦閲覧室のある建物を出てそちらまで行く必要がある。第2マドラサの建物に入り右に曲がると長い廊下となっているので⁴⁶、その三つ目の入口が目指す部屋のものである。分からなくても守衛が案内してくれるので問題はない。支払は現金ないしクレジットカードで行える。わざわざ銀行に出向いて支払いをせねばならないベヤズット国立図書館 Beyazıt Devlet Kütüphanesi に比べて簡便に済ませられるので、大変ありがたい。支払いを終えて戻ってくると画像を焼き付けた CD が用意されているので、それを受け取ればよい。まれに申請した箇所と異なる箇所の画像を焼き付けていることがあるので、確認は必要である。

図 4 複写申請用紙

 [CD TALEP FORMU]

Kendi adıma/Başkasının adına istediğim, aşağıda koleksiyon isimleri ve künye bilgileri yazılı, elyazması ve matbu kültür varlıklarına ait dijital görüntülerin resmi listenin altındaki şartları kabul ettiğimi beyan ederim. (I request the digital images of the manuscript and printed cultural properties, whose collection names and information written below, to be handed in and I declare that I admitted the terms below the list)

Kullanıcının Adı, Soyadı (Full Name of the User) : Retsu Hashizume
 Mesleği (Occupation) : Assistant Professor Uyuğu (Nationality) : Japanese
 Kurumu ve Bölümü (Institution and Department) :
 Chiba Institute of Science, Faculty of Pharmaceutical Science
 Mektup Adresi : Shiomi-cho 3, Choshi-shi, Chiba ken, Japan

T.C. Kimlik No :
 Pasaport No :
 Çalışmanın Konusu : (Subject of Study) *Medicine Botanik*

İletişim Bilgileri (Contact Information) Telefon No : E-mail:

Koleksiyon Adı (Collection)	Eserin Numarası	Eserin Müellifi (Author)	Eserin Tam Adı (Title of the Work)	Eserden İstenen Bölüm (Requested Part/Parties)	Çalışmanın Amacı (Aim of Study)
<i>Ayasofya Özel</i>	<i>45</i>			<i>tabii</i>	<input type="checkbox"/> Graduate Thesis
<i>Özel</i>	<i>81</i>	<i>Ibn Mübarekshah</i>	<i>el-Müntehabat fi Ilm-i Filaha</i>	<i>Tümü (144yt)</i>	<input type="checkbox"/> Postgraduate
<i>Sehzade Mehmed</i>	<i>3028</i>	<i>Ibn Vakıfiye</i>	<i>Filaha Nebatiyye</i>	<i>Tümü (336yt)</i>	<input type="checkbox"/> Doctorate
<i>Narn Osmaniye</i>	<i>264</i>	<i>"</i>	<i>"</i>	<i>Tümü (202yt)</i>	<input type="checkbox"/> Doctorate
<i>Tayhan V Sultan</i>	<i>3612</i>	<i>"</i>	<i>"</i>	<i>Tümü (306yt)</i>	<input type="checkbox"/> Edition
<i>Fatih</i>	<i>3598</i>	<i>Mansur b. Muhammed</i>	<i>Teşrihü'l-'ebdan</i>	<i>Tümü (354yt)</i>	<input checked="" type="checkbox"/> Project work
<i>Ayasofya</i>	<i>3597</i>	<i>"</i>	<i>Kısale der Teşrihi'l-'ebdan</i>	<i>Tümü (38yt)</i>	<input type="checkbox"/> Paper
<i>Ayasofya</i>					<input type="checkbox"/> Book authoring
					<input type="checkbox"/> Translation
					<input type="checkbox"/> Facsimile
					<input type="checkbox"/> Publication
					<input type="checkbox"/> Artistic work
					<input type="checkbox"/> Reproduction
					Diğer (Other):

① Eserin tümünü istiyorsanız, elektronik ortamda kaç pozdan oluştuğunu; bir kısmını istiyorsanız ilk ve son poz numaralarını yazınız.
 ② (If you would like the whole work, please note how many images does it contain in electronic form. If you would prefer a part of it, please write the image numbers of the first and the last pages of the part.)
 ▼ Bu eserlerden yapacağım tenkidli baskıların veya tıpkı basımların iç kapağında, kitabın yayımlanmasında Kütüphane Müdürlüğü'nün izniyle verilen CD lardan faydalandığımı belirtmeyi;
 ▼ (On the inner cover of the edition-critiques and the facsimiles that I will prepare out of the work(s) above, I will cite that I used the cd(s) which was provided by the permit of Süleymaniye Manuscript Library Directorate)
 ▼ Söz konusu tenkidli baskılardan veya tıpkı basımlardan en az iki nüshayı, ilgili koleksiyona konulmak üzere (Süleymaniye Yazma Eser Kütüphanesi Müdürlüğü 34116-Fatih/İSTANBUL) adresine göndermeyi taahhüt ederim.
 ▼ (I subscribe that I will send at least two copies of those edition-critiques or facsimiles to be put in the related collection in Süleymaniye Library to the following address: (Süleymaniye Yazma Eser Kütüphanesi Müdürlüğü 34116-Fatih/Istanbul))

Dilekçe Sahibinin Adı Soyadı: İmza / Signature *橋爪烈*

IDARECE DOLDURULACAKTIR:
 (To be filled by the administration)
 KÜTÜPHANE HİZMETLERİ BİRİMİNE
sayılı CD talebinin.....
 eser kapsamı ve mevzuat çerçevesinde
 karşılmasını rica ederim...../...../20.....
 İmza
 Talep edilen
 Toplam poz sayısı ve ücreti :
X.....=.....TL

くない。ただ入館の際にパスポートを預けることになるので、パスポート番号を控えておくとよい。

⁴⁵ 2014年9月現在1トルコリラ=50円であった。

⁴⁶ 2006年当時、この廊下には写本の書誌情報を記載したカードを入れるカードボックスが置かれていたが、現在はスレイマニエ図書館所蔵写本のファクシミリ版が展示されている。展示されている書籍は在庫があれば購入可能である。

V. 写本調査における“悲しみの後の喜び”

以上、スレイマニエ図書館の概要および利用案内について記してきたが、以下では筆者の個人的な体験をいくつか紹介し、写本調査に付随する喜びと苦しみ（とはいえ、トルコ語を話すことができれば大抵の事には苦勞しないわけであるが）を読者の皆様と分かち合いたいと思う。また、これからスレイマニエ図書館で写本調査を行うという方にとっては、心構えのための何がしかの情報になるのではないだろうか。

2006年に初めてスレイマニエ図書館で調査を行った時は、2014年9月と比べると、あらゆることがシステムティックではなかったが、それでも写本の実物に触れ、実物を横に置きながら調査することができたことは何にも代え難い経験であった⁴⁷。写本のデジタル化作業が進行中であったため、デジタル化の済んでいない写本については実物での閲覧となった。しかし2012年にしばらくぶりで訪れた時にはコンピューターでの閲覧のみとなっていた。

この2012年は複写制限という大問題に直面し、調査があまり進まなかった。同時期に調査を行っていた日本人研究者全員がこの制限をかけられたわけではないので、はっきりとした理由は不明である⁴⁸。しかし筆者が挿絵のある写本や、同一タイトルが存在しない写本⁴⁹の一冊全ての複写を申請した際、それは許可されず、一部分、それもかなり枚数制限をされた形でしか複写を認められなかったのである。これにはたまらず写本部門の責任者と親交のあった東長先生に助力を求め、制限の緩和を依頼したが、捗々しい結果は得られなかった。その後も制限を加えられた状態で複写申請と複写代金の支払い手続きを何度か行ったが、その都度トルコ語でしか意思疎通のできない会計係の者との遣り取りに気が滅入るばかりであった。

そのような次第であったので、画像の複写を行うよりも、ひたすら画面上の写本の内容を自前のラップトップに入力する作業を行うことにしたのである。こうして、朝一番で図書館に出向き、職員や守衛の眼を気にしながら閉館間際まで閲覧室にいるという

⁴⁷ 筆者は2002-2004年にかけてエジプト・アラブ共和国で留学生活を送り、エジプト国立図書館 Dār al-Kutub al-Miṣriyya で何度か写本調査を行ったが、写本そのものの閲覧はできず、代わりにぼやけてよく見えないマイクロフィルムでの閲覧を強いられた。

⁴⁸ 風聞したところによると、調査閲覧に訪れる外国人研究者が写本の画像を一冊分複写しては帰国し、校訂出版するという状況にトルコの研究者たちが不満を抱き、複写制限をするよう働きかけた、というのである。

⁴⁹ 拙い英語とトルコ語の単語を並べての遣り取りであったので誤解しているかもしれないが、世界中にこの写本しか存在しない、という場合、丸ごと複写はできないとのことであった。ただこのような条件だと多くの写本が唯一存在する写本ということで、複写制限がかかることになる。当時の複写・会計係（現在はいないようである）の、筆者に対する悪意による制限であったのではないかと思うほど、当時の筆者には厳しい対応であった。しかし、「待てば海路の日和あり」という言葉の通り、2013年に状況は好転し、2013、2014年の調査はかなり順調に進むこととなった。

日々を過ごすことになった。これが後に幸運を呼び込むこととなるのだが、その当時は気分がすぐれないまま鬱々と作業をしていたことを思い出す。

2012年夏の段階ではまた第2マドラサ内に閲覧室があったため、入力作業に疲れ、肩や腰が痛くなると⁵⁰、中庭に出て体を解す、ベンチに座って休む、などしていた。するとそこに一人の守衛氏がやって来て、筆者に声をかけてくれたのである。その守衛氏の名はイスマイル・ファキルッラーIsmail Fakirullah。現在、スレイマニエ図書館の秘書として働いている人物である。当時、あまり元気がなく中庭に座っている筆者を見て、何か感じるところがあったのだろうか、お茶をごちそうしてくれた。スレイマニエ図書館を利用した事のある方であればお分かりであろうが、同館にはチャイ（お茶）のサービスがない。（特に館長クラスの）館員とごく親しい関係になった者のみがチャイを供せられるのである⁵¹。

さてイスマイル氏、チャイをごちそうしてくれた訳であるが、その事実には驚いていた筆者をさらに驚かせる。ディヤルバクル出身という彼はアラビア語、英語に堪能であったのである。また文学を専攻しており、暗記しているアラビア語やペルシア語の詩を朗誦するなどしてくれた。こうして、気落ちしていた筆者はアラビア語が話せるというイスマイル氏と時折会話することになり、単調な入力作業、しかも複写に比べて延々と時間のかかる作業の合間、一服の清涼を得ることができるようになったのである。

2013年もスレイマニエでの調査を行った。前年の複写制限は当然継続しているものと思い、覚悟して臨んだ調査であったが、打って変わり、制限が完全に除かれていた。これまた拍子抜けであるが、調査にとってはありがたい誤算であった。試しに2012年に複写が不可能であった挿絵入りの写本の全複写を申請してみたところ、あっさり複写ができた。昨年の複写制限は一体なんだったのであろうか。

この年、閲覧室が第2マドラサ内から小児用学校の建物に移っていた⁵²。第2マドラサ内の閲覧室および書庫の改修が始まったためである。それ故、複写申請及び支払いが閲覧室内で行われ、また支払いも現金に加えてクレジットカード払いの機械が導入され、支払いが簡便になっていた。このような状況に直面し、また前年の制限の反動から、筆者は大量に写本の複写を申請した。一つにはこの状況が一時的なものではないかと危惧したためである。閲覧室および書庫の改修が完了することによってまた制度が変更とな

⁵⁰ 2013年夏の調査の間に、閲覧室の椅子が交換され、長時間の調査に耐えうる、座り心地のよいものになった。それ以前の椅子はクッションないシバネが壊れていて真ん中がへこむなど、長時間の着席に耐えないものであった。

⁵¹ 先に登場していただいた東長先生はしばしば「チャイをくれないんだよね」とこぼされていた。またW1の備考欄にも「チャイのサービスはない」と明記されている程であり、スレイマニエ図書館でチャイが飲めないというのは有名な事なのであろう。

⁵² 併せて、重要なことを指摘しておく。閲覧室の移動に伴い、手洗いが簡易型となり、男女それぞれ一つづつに減っている。紙を持参するのが良いだろう。守衛と職員はしばしば閲覧室の外でチャイを片手に話しに花を咲かせているが、閲覧者にはくれない。

るかもしれないからである。未だにその危惧は感じているが、ともかくも 2013 年の調査は気分よく進めることができた。例のイスマイル氏と顔を合わせることもあったが、どういうわけか図書館の別の所を警備しているのか、回数は少なかった⁵³。

そして、2014 年の夏、約 2 週間の写本調査のため、スレイマニエを訪れた。科研費を得ての研究が最終年度を迎え、気合を入れて臨んだのであるが、またしても朗報というか思わぬ事態に直面する。2012 年に知り合った件のイスマイル氏が守衛から図書館の秘書になっていたのである。「通常はありえない抜擢だけど、トルコは時々そういう事が起こるんですよ」と説明してくれたのは高松洋一氏である。またイスマイル氏はイスタンブール大で文学を専攻する修士の大学院生にもなったと話しており、勉学の傍ら、図書館勤務を続けているとのことであった。ただ彼の働きぶりを見ていると抜擢も故なしではない。

前述のように、アラビア語、英語に堪能であるため、図書館に寄せられる海外からの調査、取材依頼への対応に優れた働きを示しているほか、閲覧室を訪れるアラブ系の閲覧者たちへの対応も彼が引き受けており、縦横無尽の働きぶりなのである。ここ 3 年スレイマニエを訪れた印象として、2006 年時に比べると、アラブ圏からの閲覧者が増加したように感じる。一方で、閲覧室の職員はトルコ語でしか会話ができないので、イスマイル氏の様なアラビア語や英語に堪能な人物の存在は欠かせないものと思われる。今後閲覧室等が新しくなり、閲覧者の収容人数も増えることとなると⁵⁴、さらにアラブ圏や欧米以外の地域からの研究者がスレイマニエ図書館を訪れることになるだろうが⁵⁵、そうした状況を見据えて、採用されたのではないかと推測している。

ともかく 2012 年に初めて声をかけてもらった時には思いもしなかったことであるが、イスマイル氏の出世によって、筆者はいろいろと便宜を図ってもらえる立場になってしまったのである。一番の自慢はスレイマニエ図書館でチャイをごちそうになれることであろうか⁵⁶。また、第 1 マドラサ内を案内してくれたり、スレイマニエ図書館の事

⁵³ 2013 年は秋にわずか 1 日であったが、スレイマニエ図書館を訪れた。アタチュルク空港でのトランジットに 21 時間ほど時間があつたため、空港を出て数時間ほど調査を行った。当日は祝日ではあつたが、年中無休(?)であるため、このような利用の仕方でも可能であった。

⁵⁴ やはりイスマイル氏談であるが、現在 12 台あるコンピューターが 20 台程度に増えるとのことである。第 2 マドラサの中庭に面したかなり広いスペースが新しい閲覧室の場所として設定されており、再開が俟たれるところである。

⁵⁵ 2014 年の経験から言うと、閲覧室内ではアラビア語が飛び交っていた。コンピューターの操作が分からない、湾岸からやって来たと思われるアラブ人研究者に、フランス語圏から来ていた研究者がアラビア語で操作方法を教えたり、筆者もカザフスタンからの研究者とアラビア語で会話する機会があつたりと、スレイマニエ図書館の閲覧者中のアラビア語話者の割合はそれなりに高いと思われる。

⁵⁶ こうした中で、会計係のフセイン氏 Hüsein Bey も紹介して頂いた。彼もイスマイル氏と同様、イスタンブール大でヨーロッパ史を専攻する大学院生でもあるとのこと。筆者

業として行われている所蔵写本のファクシミリ版や校訂本の出版の責任者エルハン・ユルドゥズ Erhan Yıldız 氏を紹介してくれ、ユルドゥズ氏から今後の出版計画について話を聞くことができ、出版予定の書籍リストを頂くことにもなった⁵⁷。

VI. おわりに

以上、スレイマニエ図書館の概要と利用にあたっての案内となるよう書き進めてきたが、後半は筆者の個人的な経験を述べるに終始してしまった。かなり冗長なものとなっているので、図書館の利用に際しては前半のみをお読みいただければと思う。ただ、筆者のスレイマニエでの調査経験から言えることは、急がず焦らず性急に事を運ばない事であろう。とはいえ千載一遇の好機と思って海外での写本調査を行っているのも、そう簡単ではないことは確かであり、筆者も 2012 年当時は焦ってじたばたしたものである。しかし、愚直に日々通い続け、制限がかけられても出来る範囲で作業を進めることで、次につながる機会を得ることができるものと思われる。筆者はトルコ語ができないため、多くの先輩後輩諸氏に助けられた。そしてまた淡々と通い続けたスレイマニエ図書館で手を差し伸べてくれる人が現れ、彼を通じた人脈からも便宜を得ることができた。最後は人と人との関係なのである。今後、様々な状況変化が起こり得るだろうが、焦らず、淡々と足繁くスレイマニエ図書館に通い続けていきたいと思う。

スレイマニエ図書館住所連絡先

名称：Süleymaniye Yazma Eser Kütüphanesi

住所：Süleymaniye Mah. No: 27, Fatih / İstanbul

電話；ファックス：Tel. 0 212 520 64 60 ; Fax 0 212 511 22 10

E-mail：suleymaniye@kultur.gov.tr

参照 Web サイト 20150315 全て閲覧確認

W0-1：<http://www.yazmalar.gov.tr/kutuphane.php>

W0-2：<http://www.yazmalar.gov.tr/koleksiyonlar.php>

W1：<http://tbias.jp/guide/turkey#suleymaniye>

W2：<http://hazine.info/suleymaniye-library/>

W3：<https://ricas.ioc.u-tokyo.ac.jp/eng/asj/html/guide/istanbul/is11.html>

が複写代の支払いに訪れた際にはしばしば話が弾んだ。

⁵⁷ この校訂版、ファクシミリ版の既刊の中に、2012 年に複写を試みて却下されたディオスコリデス著『薬物誌 *De Materia Medica*』のアラビア語版(Ayasofya 3702)が含まれていた。このファクシミリ版作成が理由で複写が許可されなかったのであろうか。その点をユルドゥズ氏に訊きそびれてしまった。

W4 : Turkey - Manuscripts collection of the Süleymaniye Library (この情報に関してはURLを提示できないので、上記の文言全体をgoogle検索にかけ、ヒットする次のリンク表示^[DOC] Süleymaniye Institution - Unesco をクリックして、ダウンロードのこと。)

W5 : <http://www.istanbulkutuphaneleri.org/bm.php?bmid=14&cmd=detail>

W6 : <http://www.hurriyetdailynews.com/suleymaniye-library-holds-turkeys-treasure.aspx?pageID=238&nID=21441&NewsCatID=386>

参考文献

Dener, Halit (1957), *Süleymaniye Umumî Kütüphanesi*, İstanbul, Maarif Basımevi.

El-Saied El-Doğhim, Mahmoud & Seyitoğlu, Mahmud (2010), *Süleymaniye El Yazmaları Kataloğu: Süleymaniye Koleksiyonu* (Arabic Title: *Fihris al-Makhuṭūṭāt al-‘Arabiyya wa al-Turkiyya wa al-Fārisiyya fī al-Maktaba al-Sulaymaniyya*), I-III, Saqifat al-Safa Müessesesi, Malezya.

Erünsal, İsmail E. (1991), *Türk Kütüphaneleri Tarihi II: Kuruluştan Tanzimat’a Kadar Osmanlı Vakıf Kütüphaneleri*, Ankara.

Erünsal, İsmail E. (2008), *Ottoman Libraries, A Survey of History, Development and Organization of Ottoman Foundation Library*, Harvard U.P.

Necipoglu, Gülru (2011rep.), *The Age of Sinan: Architectural Culture in the Ottoman Empire*, London, Reaktion Books.

“Süleymaniye Library, Istanbul” (2010) in *The Oxford Companion to the Book*, vol. 2, Oxford U.P., p. 1187b.

イスケンデル・パラ 2007 「トルコの文化と歴史に関する文字資料を図書館の環境で利用すること (〈企画〉国際シンポジウム : アジア・アフリカ史資料学の現在と地域文化研究)」高松洋一訳『史資料ハブ』9、80-90 頁

小笠原弘幸 2008 「海外文献調査ガイド 11 トルコ」『イスラーム世界研究マニュアル』名古屋大学出版会、537 頁

三浦徹 2014 「イスラーム写本の流通と保存」小杉泰・林佳世子編『イスラーム 書物の歴史』名古屋大学出版会、300-317 頁



1. スレイマニエ・モスクを臨む。手前が図書館角。左手に見えるのが、Akar レストラン。坂を下ったあたりに入口がある。



2. 2014年9月現在の閲覧室入口。右手は開店前の Ali Baba Kanaat レストラン。



3. 2013年8月当時の閲覧室の様子。満席状態である。



4. 2014年9月当時の閲覧室の様子。9月に入り、また午前中の早い時間帯ということもあって、空いている。



5. 第2マドラサ内の一隅にある秘書室とイスマイル氏。



6. 秘書室より廊下を望む。手前から2つ目の入口が複写代金の支払い手続きを行う部屋のものである。



7. 2014年9月の第2マドラサ中庭。以前と比べて公園然としてしまった。向こう側が新しい閲覧室になる予定である。



8. 2006年当時の廊下とカードボックス。



9. 2006年当時の第2マドラサ内にあった閲覧室。まだ写本そのものの閲覧が可能であったため、パソコンが置かれていない閲覧席もある。



10. 2006年当時の第2マドラサ中庭。現在よりも草花が生い茂っている感じである。奥に見える3人の内、右端は当時の図書館館長ネヴザト・カヤ氏である。件のイスマイル氏とはここで出会った。

イスラム世界

83

論文

小野仁美「現代チュニジアにおけるシャリーアと女性：ラーシド・ガンヌーシーの
イスラーム的女性解放論」

..... 1

高尾賢一郎「サウジアラビアにおけるヒスバの継承と展開
—勸善懲悪委員会を事例に—

..... 31

☆

学界動向

橋爪烈「スレイマニエ図書館—その概要と利用について—

..... 59

☆

公開講演会報告「ムスリム女性とヒジャーブ：イスラームにおける空間分離とヴェール」

山崎和美「男女の空間分離という社会規範とイラン女性」

..... 85

後藤絵美「エジプトにおける芸能人女性の悔悛とヴェール」

..... 85

☆

書評と紹介

後藤絵美『神のためにまとうヴェール——現代エジプトの女性とイスラーム』

.....野中 葉... 87

萩田麗子（翻訳・解説）

『ウイグル十二ムカーム——シルクロードにこだまする愛の歌』

.....菅原 睦... 97

☆

イスラーム関係邦文新刊書リスト（2013年7月-12月）

.....倉澤 理...108

2015年5月

一般社団法人 **日本イスラム協会**

THE WORLD OF ISLAM

83

- Shari'a and Women in Contemporary Tunisia: Islamic feminism by Rashid Ghannushi
..... ONO Hitomi... 1
- Succession and Expansion of Hisba in Saudi Arabia: the Case of Committee for the
Promotion of Virtue and the Prevention of Vice
..... TAKAO Kenichiro... 31



Features

- A Guide to the Süleymaniye Library
..... HASHIZUME Retsu... 59



Symposium: Muslim Women and the *Ḥijāb*: Spatial Separations in Islam and the Veil

- Iranian Women and Social Norms of Spatial Separations between Men and Women
..... YAMAZAKI Kazumi... 85
- 'Repentant Artists' and the Veil in Contemporary Egypt
..... GOTO Emi... 85



Book Reviews

- GOTO Emi, *Kami no tameni matou beru* – (*Veils for God: Women and Islam in
Contemporary Egypt*)
..... NONAKA Yo... 87
- HAGITA Reiko, *Uiguru 12 muqam* – (*The Uyghur Twelve Muqam*)
..... SUGAHARA Mutsumi... 97



- New Publications.....KURASAWA Makoto...108

May 2015

Association for Islamic Studies in Japan